

西海ブロック水産業情報

NO. 87 (平成26年10月~12月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>フトモズク養殖:年明け2月から各地で海上養殖を開始予定。3月下旬摘採の見込み</p> <p>○有明海 ノリ養殖:台風接近のため直前で種付け日変更され、10月15日の小潮採苗となった。久々の小潮採苗で心配されたが順調に経過。 秋芽生産は10月15日から12月23日まで行われ、生産枚数4億3424万枚(過去5年比120%)、生産金額49億2725万円(過去5年比130%)、平均単価11.36円(過去5年比+0.82円)。 冷凍生産は12月28日から開始され、順調に経過している。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・付着数は少ない。殻高は小さめながら身入りは良好。 ・全漁協(支所)で自家採苗を実施し、8月中旬に採苗適期となり、ほぼ十分な採苗数を確保。 【栽培漁業】 ・クルマエビ、ヨシエビならびにガザミの中間育成を実施。 ・「かぐや方式」によるアサリ増殖試験を実施。 【資源管理】 ・漁協青壮年協議会が抱卵ガザミの再放流を実施。</p>	<p>○有明 【タイラギ】 平成26年10月に実施した55点調査の結果、平成26年度漁期の漁獲対象となる成貝が極端に少なかったことから、本年度のタイラギ潜水器漁業は、前年度に引き続き休漁となった。 【マガキ養殖】 平成26年11月に実施した収量調査の結果から、今後順調に推移すれば、約90トンの収量が見込めることが分かった。また、高値で出荷できるサイズが5割を超えていること、身入りも良好なことから、12月1日の口開けとなった。 【ノリ養殖】 今期の採苗は、台風19号の影響により平成4年以來の小潮時の10月15日(一部16日)から開始され、20日にはほぼ終了した。育苗期のノリ芽は、採苗後の比重が安定していたことから、全体的にはノリ芽の傷みは少なく、順調に生長したが、国営干拓前漁場では、10月下旬に発生した渦鞭毛藻(ギムノディニウム)赤潮により茶養塩が減少し、ノリ芽の色調が一時不良となった。冷凍入庫は、11月8日頃から開始され、11月13日までにほぼ完了した。秋芽網期の摘採は、11月18日からほぼ全漁場で開始され、12月21日まで行われた。秋芽網期の生産枚数・金額・平均単価は、約5.3億枚、約61.0億円、11.55円/枚であった。冷凍網の出庫は、12月29日(一部1月14、28日)から開始された。</p> <p>○玄海 【種苗生産】 ・マサマコ:6月下旬より放流用種苗を配布。10月上旬まで計130万個(10~20mmサイズ)配布済み。 ・アカウニ:9月下旬から生産開始。12月末時点で3~8mmサイズ約100万個体飼育中。 ・クロアワビ:10月下旬から生産開始。12月末時点で2~3mmサイズ約60万個体飼育中。 ・アゲマキ:11月上旬に2mmサイズ60万個体搬入し中間育成開始。12月末時点で約6mmサイズの稚貝飼育中。1月下旬頃約8mmサイズで放流予定。</p>	<p>○標識放流 ホシガレイ(全長134~205mm、5.1万尾、有明海) ○放流魚追跡調査 トラフグ、クエ、クルマエビ、ガザミ、ホシガレイ他について追跡調査を実施 ○貝類の増養殖試験研究 ・タイラギ、マガキ(シングルシード)の養殖試験等を実施中。 ○養殖魚類の育種技術開発研究事業 【トラフグ】代理親魚技術によるトラフグYY雄養成中。優良親魚候補(早熟、高成長)由来種苗の形質評価試験実施中。 【ホシガレイ】超雌個体飼育中。</p>	<p>○例年と比較して魚病発生が少ない傾向がみられた。 ○年間を通してクルマエビのPAV発生がなく、クルマエビの成長、生残は良好であった。 ○ヒトエグサの人工採苗試験を実施している。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・中間育成したスジアラ種苗8千尾(平均全長90.6mm)を奄美群島内に放流。</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産試験関連 10月下旬、3日間で37尾の活魚を収集し、22尾から延べ138千粒の受精卵が得られ、79千粒を県内量産機関へ提供し、59千粒を、当場内5kLコンクリート水槽に池入れし、種苗生産試験を行った。柱状サンプリングの結果16,000尾がふ化(27.1%)、16~17日齢に原因不明の大量減耗(浮上へい死)が発生したが、その後は順調に成長し、12月12日(48日齢)に選別・計数(563尾、平均全長24.3mm)し2水槽(4.5kL)に分槽した。</p>		